慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済学関係文献目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.12 (1954. 12) ,p.1175(97)- 1176(98)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19541201-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第一部では未開發國の發展の目的を論じ、未開發國自身はナショナリズムを育成し經濟的政治的獨立と繁榮を目標としているが、米國としての希望は、政治的には自由陣營に屬し米國の政治社會機構に對する脅威とならぬことであり、經濟的には米國の原料供給源、輸出市場及び投資市場となることにある。ヒューマニズムの立場からも發展を期待している。未開發國の發展に伴つて生ずべき經濟的な摩擦については、米國自體の經濟力をもつてすればこれを調整し解決することができるとしている。然しながら、民主主義はいわゞ一つの贅澤品である。從つて一國が經濟發展を行う過程においては必ずしも民主主義的な政治社會組織に赴くとは限らない點に問題がある。過去における十五カ國の例をみても、ソ連、日本、獨の如く經濟發展が政治的には獨裁的組織の下に行われ或はそれを助長している。ただこの經濟發展と政治社會形態との關係は、時と處に應じ種々の與件に相異があるので何等かの法則を求めることは不可能であるとしている。

第二部においては本問題に對する共產主義國の方法を分析しているが、現在における共產主義諸國の經濟的軍事的な力に限度があるので未開發國に對する支配力についてはむしろ樂觀的である。然し共產主義側は未開發國問題の本質が經濟問題であると同時に社會問題であることを把握している點、及び人權を無視しても發展という目的のためにはすべてを强行するので共產主義體制の下において工業化のテンポが早いという點が未開發諸國にとつて大きな魅力となつていることを認めている。

第三部において民主主義的な發展方法を論じ、米國のイデオロギーの基礎である人權の尊重、自由企業、國家の尊重等を發展の目的とするのみならず發展の過程においても實現して行く點に共產主義的方法との相異を置いている。從つて未開發國が社會的政治的に民主的な體制を逐次確立して行くのでなければいくら經濟援助を行つても經濟發展の觸媒ともなり得ず泥沼に金を投げ込むに等しいとしている。未開發國の直面している問題として、過剩人口、資源開發、資本蓄積、土地改良、敎育、技術等の問題を擧げて分析し、米國は經濟的軍事的援助いわばmaterial technological aid も必要であるが、勞働、行政、厚生等の社會技術的援助 social technological aid に重點を置くべきであるとしている。このためポイントフォアを遙かに擴大する要があり、又WHO、コロンボプラン、ECAFE、ユネスコ等の國際機關を活用し、强力且つ長期にわたり實施すべきであると述べている。

本書は米國のために書かれ、その目的ははつきりしており、諸問題の評價も勿論米國民主主義を尺度としているが、未開發國問題について社會的ファクターの重要なことを歷史的にも說明しようと試みた點にその意義が認められよう。たゞ著者が、例えば資本の蓄積、人口問題、敎育等について米國式の自由な民主體制のみに委ねておいてはテンポが遲く、むしろ政府によるある程度の强制も必要とするであろうと述べている點は、急速な發展のために强力な政府が積極的なイニシァティーブを發揮する必要を認めたものであり、米國式の思想や體制がそのまま未開發國に輸出し得ないことを反省したものとして興味がある。

（飯島　瑞子）

經濟學關係文献目錄

（昭和二十九年八月刊）

理論・學說史・經濟思想

＊經濟學概說　高田保馬著　A5　二〇四頁　二五〇圓　有斐閣

＊物價（經濟敎養叢書）山口茂著　B6　一六二頁　一五〇圓　弘道館

＊若ものたちの經濟學　上（對話式入門講座）守屋典郎著　B6　二二六頁　二〇〇圓　三一書房

＊マルクス主義政治經濟學入門　上　レオンチェフ著　野間清、石堂清倫譯編　B6　二五二頁　二一〇圓　三一書房

＊アダム・スミス研究入門　水田洋著　A5　三〇八頁　四三〇圓　未來社

＊經濟學入門　ジョン・イートン著　横山正彥譯　B6　五一八頁　四二〇圓　新評論社

財政・金融・保險・證券

＊近代國家財政の理論　高木壽一著　A5　三三五頁　四三〇圓　慶應通信

＊金融論選集　1　金融學會編　A5　三五四頁　五〇〇圓　東洋經濟新報社

＊保險（經濟敎養叢書）大村良一著　B6　一九六頁　一七〇圓　弘道館

＊インフレーションの抵抗　ポール・アインチッヒ著　波多野眞他譯　A5　二二四頁　二五〇圓　實業之日本社

農業・林業・水產業

＊農業剩餘價値形態論　新澤嘉芽統著　A5　三六四頁　六八〇圓　東京大學出版會

＊農地改革（農村問題講座1）大谷省三編　A5　二六四頁　二九〇圓　河出書房

＊日本農村社會の構造分析　福武直編　A5　五〇四頁　七二〇圓　東京大學出版會

＊村の次三男―その問題と生き方―　松丸志摩三著　B6　一九七頁　二二〇圓　新評論社

歷史

＊日本資本主義發達史（岩波文庫）野呂榮太郎著　A6　三一三頁　一二〇圓　岩波書店

＊世界歷史講座5　民主主義科學者協會歷史部會編　B6　二三八頁　二三〇圓　三一書房

＊世界現代史　上（社會科學選書）黃元起編　山下龍三譯　B6　三〇六頁　二九〇圓　青木書店

社會學

＊科學と技術（社會學體系8）　田邊壽利著　B6　二五二頁　石泉社　二八〇圓
＊習俗と道德（社會學體系7）　田邊壽利編　B6　二五五頁　石泉社　二八〇圓
＊文學と藝術（社會學大系10）　田邊壽利編　B6　二三五頁　石泉社　二八〇圓
＊現代社會批判　清水幾太郎著　B6　二一〇頁　一八〇圓　講談社
＊社會學ノート（河出文庫）清水幾太郎著　A6　一七四頁　河出書房　七〇圓

商工業・經營・会計

＊管理會計　長谷川安兵衛著　A6　二四八頁　一二〇圓　中央經濟社
＊企業管理　竹林庄太郎、牛尾眞造著　A5　三二四頁　三九〇圓　ミネルヴァ書房
＊企業經營と經濟豫測　F・D・ニューベリー著　住友化學經理部譯　A5　三四四頁　五八〇圓　ダイヤモンド社
＊現代豫算統制　現代會計學全集一〇　古川榮一他著　B5　三四三頁　五五〇圓　春秋社

世界經濟・貿易・海外事情

＊世界經濟の現狀　最新版　日本經濟新聞社　經濟解說部編　B6　二七八頁　二五〇圓　同文館
＊アジア經濟の現勢と日本　宮田喜代藏編　B6　三二八頁　三〇〇圓　森山書店
＊アメリカ經濟事情　シェパード・ビイ・クラフ著　元野義勝譯　A5　二二四頁　二八〇圓　敎育書林
＊帝國主義の沒落（クセジュ文庫）ユベール・テシヤン著　松平治譯　B6　一四四頁　一二〇圓　白水社
＊アジアの民族主義と共產主義（岩波現代叢書）W・マクマホン・ポール　大窪惠二譯　B6　二六一頁　二四〇圓　岩波書店
＊帝國主義の經濟と政治の基本的諸問題　上　ヴァルガ著　B6　三八六頁　三八〇圓　大月書店

編集後記

▽　現代において經驗科學とは一般法則の探究ということを意味している。從つて科學と科學以前との間の差別の規準は、數量化と形式化と體系化とにおかれている。またこうすることによつて特定の實在層を一般に認識上征服することができると考えているのである。このような科學の考え方のパラディグマは、自然科學にあるそれは換言すれば、現實においてそのような形式化や數量化や體系化が可能であり、或いは少くともそれ自身、ある合法則的な規則に從つているような層を認識するということになるであろう。

ところが「このような研究方向の一つの可能性を究極にまで持つて行くと、そのように作り上げた知識はなるほど種々の對象の同質的な平面を科學的に捉えることができはするが、しかし現實の全體はそのことによつては到底克服されない。」（マンハイム）ということが指摘されたのは決して新しいことではない。

にもかかわらず、この全體的把握は口でいう程容易ではない。むしろそうであるから科學としては除外される傾向をもつたのであろう。

▽　laboratory での成果が、love oratory（おしやべり）におちいらないためにも、この全體的把握が重要なのではないだろうか。「もし人が生成しつつあるものについて、實踐について、また實踐のために知識をもとうとするとき」科學の性格は變更されるのである。

（加藤　寛）

昭和二十九年十一月二十五日印刷
昭和二十九年十二月　一　日發行

第四十七卷　第十二號　定價　七〇圓　送料　八圓

編集兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部內　氣賀健三

印刷所　東京都港區芝三田豐岡町八　図書印刷株式会社　川口芳太郎

豫約購讀料
一年分　金八四〇圓（送料共）
半ケ年分　金四二〇圓（〃）

發行所　東京都港區芝三田二丁目　慶應義塾大學經濟學部研究室內　慶應義塾經濟學部